

信越トレイルを歩く (1)

2017.10/27~29 Aさんと

北アルプスなどの縦走やハードな山行は年齢的にも体力的にも今季で最後にするつもりである。今後はロングトレイルや里山中心に歩こうと思っている。信越トレイルは前々から意識の中にあっし、数年間信越トレイルクラブにも会員になっていた時期があったがやっと実現した。単独で挑戦すると入山口～下山口の足の問題があつて挑戦しづらい面があるが、Aさんが一緒にやりましようとなり出てくれたので足の問題がなくなったので、早速挑戦した。10/21～22が最初の予定であつたが、天候で延期になっていた。斑尾山から天水山まで80KMを6つのセクションに分けて設定されている。Aさんがすでに「セクション1」を歩いたとの事で今回は27日にセクション2の赤池からセクション3の桂池テントサイトまで、28日に桂池からセクション4の関田峠まで歩いて光ヶ原キャンプ場泊、29日は関田峠からセクション6の野の海峠まで歩く予定であつた。所が台風21号で飯山地区の県境の道路が何箇所か土砂崩落で不通になってしまった。関田峠への道も不通になってしまった。(従つて光ヶ原キャンプ場へは車で行けなくなってしまった。今回はテント泊縦走であるが、車2台を使って、テント場まで1台行ってテント泊に必要な荷物等は運んでおいて、縦走はサブザックの軽身で歩くと言う「ウルトラC」作戦である。又最終日の29日は台風の接近で雨予報もありで、27日は桂池テントサイトで合流して、車1台テント用品を積んで留置して、1台で入山口へ向かつた。

10/27 (金、快晴) 自宅 3:00~5:40 桂池テントサイトでAさんと合流

6:00~6:40 沼の原湿原P 6:45~7:05 頃 (土砂崩落個所で両足が膝まで土砂の中にはまってしまい身動きできなくなる)。

沼の原湿原Pからスタート



9:05 2時間がかかりでやっと脱出する。~9:30 頃 ほぼ全身泥だらけで沼の原湿原Pへ戻る。トイレの手洗いでズボンや靴・シャツや体を洗う。パンツまで泥だらけ。10:30 頃

パンツ姿で車に乗り桂池テントサイトに置いた車の回収をしてから (着替え等が積んであるため) ~12:00 頃 戸狩温泉暁の湯で入浴する。

このコインランドリーで助かりました



12:50 頃 国道117号線沿いのコインランドリーで着ていた全ての衣類・帽子・登山靴・ザックを洗い・乾燥機にかけて乾かす。(ここには靴の洗濯機と専用の乾燥機もあって

とても助かった) ~明日の下山口の希望湖Pに車1台置きに行ってから 16:00頃 桂池テント場に戻り、テント泊。

桂池テントサイト



全く予期しない事態で計画を変更する事になったが、無事救助を求める事無く脱出できた事がせめてもの幸運と感謝すべきか?。単独行なら携帯で救助を求めざるを得なかったで

あろうし、携帯が圏外なら、低体温症になって命は無かったであろう。(この日他のトレッカーがこなければ) 又車を置いた入山口まで20分ほどで戻れた事とトイレに洗い場があった事が良かった。

状況を記すと土砂崩壊の箇所があり、登山道が寸断(20Mほどであるが)されていて倒木もあり、迂回して泥化した箇所を渡ろうとした時に足が潜ってしまった。(Aさんは何とか通過したが)、もがけばもがくほど潜ってしまいとうとう股下まで完全に土砂の中にはまってしまった。Aさんが救助するべきいろいろ努力してくれるが彼自身も2重遭難の危険があり、太目の木の枝を探して持ってきて足場造りをした上で引っ張ってもらったりするが全く効果無。二人で体の周りの土砂を素手でどかすがすぐ又埋まってしまう。救助を携帯電話で要

請する以外方法が無い、下半身が濡れて体も寒くなってきた。そんな時に、小さな流れの水を引き込んでみたら土砂が柔らかくなったのか、足が少し動くようになったので、手で土砂を取り除き続けた。Aさんに引っ張ってもらってようやく脱出できた。私はこれまでの登山で幸いな事に遭難事故や怪我をした事が無く過ごしてきたが、今回初めて想定外の事故に遭遇してしまった。

テント場はトイレがあり、駐車場も近く、池を見下ろす芝張の場所で予想外の苦労をした後だったので心が安らげた。避難小屋も併設されているので、雨天時も快適だろう。他には長岡市からの若い単独行で今日は野の海高原テントサイトから歩いて来たと言うのだから物凄い健脚者だ。明日は基点の斑尾山を越えて帰ると言うのだから「化け物」に近い。2泊3日で全線踏破をしてしまうのだから（一日平均30KM位になる）。私のはまった地点の話をして気を付けるように助言した。

10/28（土、晴れのち小雨）6：35～9：10 富倉峠 9：15～10：15 涌井
10：20～13：20 毛無山 13：35～14：10 希望湖P 14：20～15：10 桂
池テントサイトの車回収し 15：15～16：14 天水山松之山口Pに1台車置いてから 16：16～17：05 野の海高原テントサイト（泊）

当初予定を変更して予定では昨日歩いたはずの区間を逆コースで歩く事にする。但し昨日の泥沼の手前の希望湖までとする。長岡市の彼はヘッドで5時頃出かけたようでテントは無かった。通常の2.5日分を歩くのだから当然か

も。まずは黒岩山への登り、この山は山自体が国の天然記念物で厳重に保護されている。ヒメギフチョウとギフチョウの混生地帯になっているとの事。五角形の積雪を考慮した東屋があって、少し先に飯山盆地の眺望が開けていた。黒岩山の先からは林道歩きが続く、キノコ採りの人達の車が数台すれ違う。紅葉真っ最中で気持ちが良い。

熊ノ巣池から黒岩山へ



案内板が整備されています



キノコを探しながら歩く、クリタケ・チャナメツムタケ・カタハが採れるが本命の「ナメコ」は見アタラない。

チャナメツムタケ



ブナ林が多いのだが。涌井で国道292号線を横切っても林道歩きが続き、ちょっと興ざめするが、紅葉とキノコ採りで我慢する。

毛無山山頂そばの展望台からは志賀高原や千曲川・飯山市街の展望が良い。昨日車を置いた希望湖付近は紅葉見物客がチラホラいる。明日は朝から小雨予報なので野の海高原テントサイトに泊まり、最終区間の天水山まで歩く事にする。この区間は松之山口Pまでコースタイムで2:30と短いので小雨でも苦にならないだろうとの算段で。そのために桂池テントサイトへ戻り車を回収して、2台で下山口の松之山口へ向かう。此处を通る時には必ず寄る「道の駅信越さかえ」を過ぎてすぐ山道に入り、無印良品津南キャンプ場（会員制、紅葉の素晴らしい素敵なお所だった）経由で天水山松之山口Pへ向かう。雨が降り出して来た。新しい綺麗なトイレのある駐車場に車を置いて、野の海高原テントサイトへ向かう。

野の海高原テントサイト



国道 117 号線から 10KM 山道を登る勾配の緩い舗装道路を走る。紅葉が素晴らしい、今まで見た紅葉名所より綺麗だと思った。17時過ぎにテントサイトに到着、暗くなってきたし、小雨も降り出した

ので急いでテントを設営してテント内で飲んで早めに寝る。雨の日のテント泊は初めてで心配だったが。

10/29 (日、小雨) 6:25~7:00 深坂峠 7:10~8:55 天水山 9:00~
9:45 松之山口P 9:55~10:40 野の海高原テントサイト (車回収)
11:00~11:45 いいやま湯滝温泉で入浴・関田峠への県道95号線の土砂
崩落通行止め箇所まで下見で往復し) 13:40~16:02 下道で帰宅。総走行
393KM。

小雨が降り続けている、テント内でコーヒー飲んでカップめん食べて出かける。
深坂峠へのアプローチトレイルが見つからず(全区間かなり案内板等整備されて
いたが、此処は無かった) 道路を歩いて向かう。

深坂峠



深坂峠は上越市への道で昔1回通った事がある。巻機山・越後駒ヶ岳・浅草岳・守門岳・日本海までの展望台になっているようだ。此処には立派な案内板があった、逆コースには何故か無いが。三方岳(1138M)への登りが始まる、キノコを探しながら歩く、紅葉が素晴らしくブナ林も多いので「本命」を探す。小雨なので雨具を着ればそれ

ほど苦にはならないが矢張り気が重い。くりたけ中心にキノコは良品が採れたがナメコはほんの一塊しか採れなかった。登山道から林の中へは入らなかった

ので、登山道脇では限界もある。信越トレイルの北の基点・終点の天水山頂（1088M）からは鳥甲山・佐武流山・苗場山・仙ノ倉山等が展望できるようだが何も見えない。

天水山頂



此処からは下り40分で松之山口に着く、途中のブナ林は今まで見たブナ林の中でもトップクラスの美しさだった。今日は誰にも合わずにセクション6の松之山口に到着する。

天水山松之山口に到着



此処のトイレは一番新しいし、綺麗だし、入り口に着替え等出来るスペースもあるので、雨の時は便利である。野の海テントサイトへ車の回収に行き、帰路いいやま湯滝温泉で入浴する。この温泉は人気のように多くの入浴客で賑わっていた。(昨日の暁の湯は貸切状態だったが) 昨日・今日と「信州物味湯産手形」2冊で2人で

使えたので良かった。(1冊は11/28が期限で残り2施設となった)。次回の為に関田峠の通行止め区間を見る為に田茂木池上のゲートまで行ってみる。

ナビは残り 3.1KMを示していたので、歩いても下りなら40分位だろう。帰路はこの辺の道に詳しいAさの後について走ったので時間も早いし、高速に乗らずに下道で帰った。赤沼ならず「泥沼」にはまってしまいとんだハプニング？でスッカリ予定とは違った山行になってしまったが、思わぬ温泉入浴や素晴らしい紅葉ときのご採り、車で横付けのテント泊などそれなりに充実した信越トレイルの初挑戦であった。

赤沼 健治